

平成26年度 東部地区道徳教育研究協議会

平成26年10月8日(水)

# 久喜市立久喜東小学校

## 低学年部会

主題名 生まれてきてよかったな 3-(1)

資料名 「大切なたからもの」(彩の国の道徳「きょうもげんきに」)



授業風景



ワークショップ型グループ協議

## 授業者より

「私の授業の観てほしいポイント」の説明、授業についての感想等

※「私の授業の観てほしいポイント」

①役割演技について ②書く活動について ③ゲストティーチャーについて

詳しくは、「私の授業の観てほしいポイント」をご覧ください。

- ・動作化が少なかったなので、思いを引き出せたかどうか。
- ・個人差はあるが、一人一人自分の思いを書けていたと思う。
- ・子供に対する家族の思いや願いを伝えていただけた。

## 各グループからの発表

ワークショップ型分科会

- ・役割演技をすることで主人公の喜びに共感することができていた。
- ・「はるとに変身」の声と赤白ぼうしに顔が付いているのがよかった。
- ・一人の発表の後、違う意見や見ている児童の意見等への切り返しや発問の仕方がよく話合いが深まった。
- ・ワークシートに書くことで気持ちがよく表せていた。
- ・教師が一人一人のワークシートに赤線を引き、児童を大切にしている様子が見て取れた。
- ・自信をもって発言できていた。日頃の学習の成果が表れていた。
- ・保護者からの手紙を読んだ後に書く活動に取り組むとよかった。
- ・ゲストティーチャーの話が素晴らしかった。打ち合わせが細かくされていたことがうかがえる。
- ・保護者の話を聞くことによってねらいとする価値を印象付けることができた。
- ・保護者の協力があり、連携の大切さが理解できた。
- ・保護者の愛情が、子どもに伝わっていた。
- ・心温まる終末だった。気持ちを落ち着かせてから、手紙を読ませてもよかった。





## 指導講評

- ・全職員が積み上げてきた素晴らしい授業だった。
- ・たくさんの工夫が指導案に盛り込まれていた。
- ・ねらいに迫るために役割演技を取り入れる際には、じっくりと役にひたらせる。さらに自分の意見を言わせたい。今回の学習では、切り返して発言を引き出していた。
- ・2年生後半より児童同士で行うやり方もある。高学年においては、一人が2役の方法もあるだろう。
- ・書く活動については目的を明確にし、しっかり時間をとっていたので、自分の言葉で書けていた。
- ・ただ感想を書くのではなく、周りの命を大切にしようとするねらいをしっかりと児童がつかんでいた。
- ・ゲストティーチャーの活用が大変効果的であった。
- ・ゲストティーチャーが全体の児童、他の保護者のことも含めて話されていた点が大変素晴らしかった。
- ・保護者の参画は授業だけではなく、資料づくりを手伝っていただく等、多様な参画の仕方がある。ぜひ工夫してほしい。
- ・手紙の活用についてはどの学年で活用するのかを話し合っておく必要がある。
- ・ねらいに迫るためには気持ちを問うだけではいけない。さらに補助発問を準備しておきたい。
- ・中心発問で多様な考えを出させるためには、意見を出させ、板書し、さらに児童に問いかけるとよい。
- ・指導案に「楽しく取り組ませる道德の時間」についての手立てが具体的に書かれている。ぜひ参考にしてほしい。

